

INAHO FARM 通信 2024 年 7 月

INAHO FARM の佐藤貴之です。

今月から、毎月 1 回牧場での出来事や考えていることなどを、ここに残して発信していくことにしました。自身の記録用でもあり、また牧場の活動を外部に向けて「発信」していくツールとしてとても重要なことだと思い、なんとか続けていきたいと思っていますので温かく見守っていて下さい。

<2024/7/1 現在の飼養頭数>

○ジャージー種 12 頭：

搾乳牛 5 頭（アイナ、アユ、アコ、リンリン、エマ）

乾乳牛 1 頭（チッチ）

育成牛 5 頭（デイゴ、シュギモー、伊予、ウィッシュ、ベル）

雄子牛 1 頭（大福）

○交雑種（ジャージー種×黒毛和種）5 頭：

（パン、ハッチ、ワトソン、ココア、ホセ）

・梅雨明けで一気に”沖縄の夏”

沖縄は 6/20 に梅雨明けしました。今年の梅雨は記録的な雨量だったようで、本当に毎日のようにびしょ濡れになりながら朝の仕事をしていた記憶があります。「さあ梅雨が明けたから外仕事を進めるぞー！」と行きたいところですが、放牧地の整備や開拓などやりたいことは山ほどありますが、製造や事務仕事に追われなかな手回りが回りません。そして何より、外仕事に出ると暑すぎて体力が持ちません。酪農家がそんなこと言っているのはだめなのでしょうが、なにより自分の健康が第一。張り切りすぎて夏バテしてしまった 2 年前を繰り返さないよう、ほどほどに自分で管理していかなくてははいけませんね。

・ウシアブの時期

梅雨明けで 6 月最終週からアカウシアブが目立つようになりました。とても大きいアブで、スズメバチによく似ていますが、頭部の辺りの違いが分かればすぐ認識できるようになります。ウシアブは暑い時期になると発生し、人間や家畜を刺す吸血昆虫です。牛にとっては普通のハエも厄介ではありますが、このウシアブは牛の分厚い皮膚を持ってしてもかなり痛いみたい。大発生すると牛たちは落ち着いて食事できない様子で、大きなストレスになります。うちは牧場の割にはかなりウシアブが少ないと思います。去年はほんの 1 週間くらいだけ気になって、すぐに見なくなったので、今年も短期間で居な

INAHO FARM 通信 2024 年 7 月

くなれば良いのですが。

搾乳中の牛がウシアブに刺されると、脚を上げたりしてミルクが乳首から外れてしまったりするので、我々は見つけ次第叩き殺します。牛の体を叩くことにはなりますが、アブを駆除してもらったという事は牛もわかっているようで、なんだか嬉しそう？ちょっと人への信頼感が高まる感じがします。牛の移動中にも、牛の体に止まったアブは素手で叩き落します。これが意外と鈍い生物なので、俊敏性の高い人なら慣れればハエ叩きなど使わなくても簡単に駆除できると思います。

・ベル、離乳して広い放牧地へ合流



昨年 12/29 に産まれたジャージー牛メスのベル（母リリン）、6/22 に離乳しました。通常酪農家では 2~3 か月ほどで離乳させるのですが、うちでは大体半年間哺乳しており、離乳と同時に搾乳牛たちと同じ広い放牧地へ移動します。なので離乳後 1 週間くらいは、「ミルクが欲しいよ〜」と声が枯れるまで鳴き続けます。最初はほかの牛たちとうまく馴染めず、ちょっと孤立している様子でしたが、少しずつ馴染んできています。搾乳場にも毎朝一緒に移動しますが、大人の牛に突かれた

りしながらも、スタスタと元気良く走って先輩たちを追い抜いていく姿もまた愛らしいです。牧場で初めてのはっきりした白斑のあるジャージー牛なので見分けやすく可愛いです。きっとうちのアイドル牛になってくれると思います。

・雑誌「おきなわいちば」掲載

6/5 発行の「おきなわいちば」にどどーんと 4 ページにわたって牧場を掲載していただきました。雑誌掲載は我々にとっては初めてのことでした。沖縄では誰もが知るほど有名な雑誌。丁寧に取材していただき、素敵な誌面に仕上げてくださいました。観光客向け情報誌としてだけでなく、地元の方にも多く読まれている雑誌というところに意義を感じています。

昨年 3 月半ばから移動販売車でのソフトクリーム販売を皮切りに乳製品の販売を開始し、県内のいろんなイベントにも出店させていただきました。南部への遠征も結構やりました。その甲斐あってか近頃では我々のことを認知してくださっている県民の方が増えてきているの



INAHO FARM 通信 2024年7月

を実感します。とはいえ、まだまだほんの一部だと思います。今回の雑誌掲載で、また新たに我々の取り組みを知っていただく方が増えてくれたら嬉しいです。

・ボス牛クンの出荷

6/6にボスだったクンを出荷しました。生後半年で熊本県の玉名牧場さんから船でやってきた INAHO FARM 初代5頭のうち、最後の1頭でした。5年間の INAHO での暮らしはどうだったかな。クンはうちで1番の美牛でした。きれいな目にどこかエモい表情、いつも癒されつつ、なかなか人間に懐かない牛でした（思えば1期生はみんな懐かなかった）。これは飼い主としての自分の力不足という面も大きいと思っていますが、性格もあります。そして牛との信頼関係を築くのも時間はかかります。

クンはとっても可愛いけども体は誰よりも小柄で、乳量もダントツの最下位でした。同じだけ餌を食べても乳量が他の牛の半分以下。これでは、限られた面積の中で頭数が増えてきている現状、あくまで経済動物として飼育している中で淘汰対象となるのは仕方ありませんでした。

これまでは、自分たちで2トン車に牛を積んで危なっかしく神経をすり減らしながら南城市の食肉センターまで1時間半かけて運搬していましたが、今更ながら安全面を考慮し、多少コストがかかってもしっかりと運搬車を持っている外部の方をお願いすることとしました。出荷当日、家畜運搬車で現れたのは名護市で20代前半にして削蹄士として独立をされたという長山青年。とっても若いのですが、見た目やオーラは立派な大人の男性。とても遅く、こういった形でまた地域の若い方との繋がりができたことも嬉しい出来事でした。我々夫婦2人が、抵抗してなかなか動かないクンに手こずっていたところ、長山さんがサポートに入るとあっという間にトラックに乗ってしまいました。どうやらコツがあるようで…。まだまだ未熟者です。今度牛を動かすときにはその技を試してみます。



・アユ 2回目の出産

6/12夕方にアユが2回目の出産をしました。予定日が6/18で産んでもおかしくないとはいえ、過去ここまで予定日より早く産んだ牛がいなかったので、油断していました。とはいえ早くからお腹はだいぶ大きかったアユ。夕方妻が梅太郎（琉球犬）の散歩をしていて気付きました。梅雨真っ只中で連日大雨が続いてい

INAHO FARM 通信 2024年7月



たので、産んだ場所もぬかるみがひどく、子牛も泥んこでした。とりあえず電柵から離れて、体温が低下しすぎないように抱っこして木陰に移動させました。びしょ濡れですが元気な交雑種の男の子で、名前は「ホセ」と名付けました。

以前は、産んですぐに子牛を運び出し隔離し、母牛一頭だけを搾乳場へ移動させ初乳を搾り子牛に給与するという作業をしていましたが、これを一人でやるのはとっても体に堪えるので、今は一晩母子を放牧地で一緒に過ごさせて、翌朝に隔離することとしています。子牛は産まれてくるときは免疫ゼロの状態です。いち早く母牛の初乳を飲むことで免疫力を獲得しなくてはなりません。なので、お産の日にはちゃんと子牛が母牛のおっぱいを飲んでいるかを確認します。

翌朝、搾乳したアユの初乳を哺乳ボトルでホセに給与すると、飲むのがとっても上手。こんなに最初から上手に飲む牛は INAHO 史上初めてです。びっくりと同時により愛着が湧いてきます。しばらくは部屋の前に係留して雨を避けつつなるべく人間を近くに感じて過ごしてもらい、現在は子牛パドックで大福とココアと3頭で仲良く過ごしています。

お母さんのアユも絶好調！元々乳量の多い牛でしたが、今は日に11Lくらい出してくれています。初産より2~3産目の方が乳量は増えると言われていますが、それを実感しています。おかげで毎日ミルクを余らせないように使い切るので大変です。またアイスクリーム需要も高まってきたのでありがたいことに製造量も増えてきていますが、それでも全てを加工用には使い切れないので、子牛たちにたっぷり飲んでもらっています。粉ミルクはいろいろな添加物が入っていて栄養もたっぷりなようですが、やっぱり子牛にとっては母乳の方が良いよね。健康に遅く成長してくれると思います。

・なかほら牧場（岩手県岩泉町）元牧場長の中洞正さんご来場

6/16 岩手県で山地酪農を行っているなかほら牧場を立ち上げ築き上げてこられた中洞正さんがご来場されました。私にとってはとても感慨深い出来事です。というのも、東京の乳製品商社勤務時代に、休暇を使いなかほら牧場を訪ねて中洞さんの講話を聴き、酪農体験をしたことがきっかけで酪農界への転身を決意して今があるからです。あの時は20代半ばでしたが、ここまで情熱をもって何かをやりたい！と強く思ったのは初めてでした。

中洞さんを見ていて素敵だなと思うのは、しっかりと自分の言葉で思いを発信しているということです。そしてそれを、若手のスタッフたちにも徹底しておられました。「伝える」ということは、私が酪農を始める以前からとても強く意識していることで、



INAHO FARM 通信 2024 年 7 月

今まさにその大切さを実感しながら、日々活動をしています。それは、商品を守るための見せ方だったりもしますが、目的は売ることではありません。うちの商品はあくまで、思いを伝えるための手段だと思っています。おいしいソフトクリームがきっかけで、酪農の在り方や食の選び方に思いを巡らせて、小さいことでも、何か行動に移してくれる人が増えてくれたらこんなに嬉しいことはありません。

・「放牧ジャーキー牛肉をいただきますの会」を開催



6月の一大イベントでした。6/29に今月出荷したクンのお肉をいただきますの会を実施しました。牧場としてこのようなイベントを企画するので初めてのことでしたが、これこそずっと私がやりたかったことでした。うちの牧場を見ていただき、そのお肉や乳を使った料理を召し上がっていただきながら生産者としてお話ができること。とても幸せなことだと思います。今回は企画するにあたり、「一緒に取り組みたい」と思える角谷シェフの存在があったことがとても大きいです。昨年の肉の販売がきっかけでご縁を頂き、今回のイベントにお声掛けしたところ、とても快く引き受けてくださり、準備の段階から多大なるサポートを頂き、無事に会を成功させることができました。私自身、角谷シェフの料理を頂くのは初めてでしたが、本当に大感激のおいしい料理に仕上げてくださいました。

イベントには18名の皆様にご参加いただきました。参加者同士での交流も弾んだようで、良い時間を過ごしていただけたと思います。また、このような会は不定期でやっていきたいと思っています。

参加された皆様が、「たのしかった」「おいしかった」だけでなく、命をいただくことや食の在り方について、どんなことを感じて下さったのかとても気になります。

